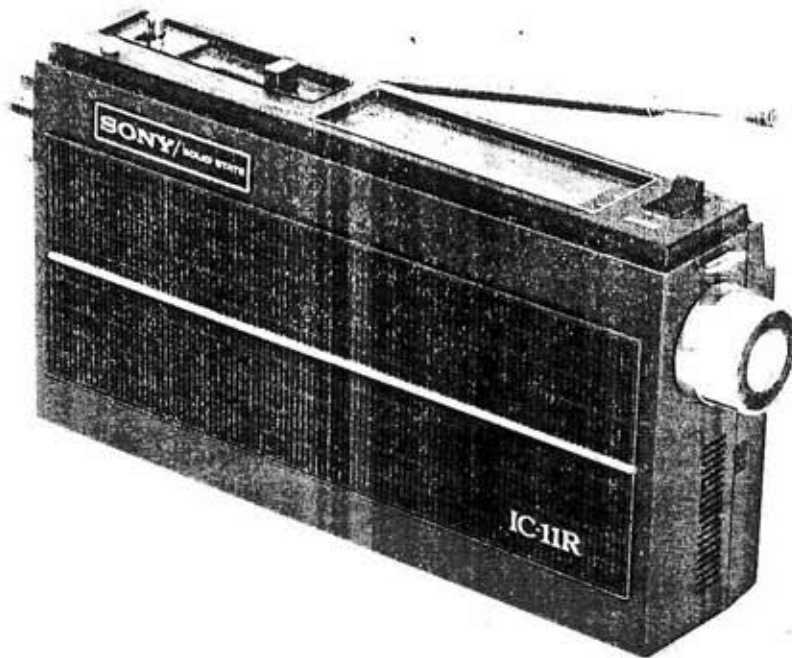


SONY® Service Guide

ICF-11RD



ISOおじ使用

〈概略仕様〉

構成

回路方式	11C, 1 FET, 10Trスーパーヘテログイン
アンテナ方式	AM: 棒アンテナ10φ×160mm FM: ロッドアンテナ7段85cm
大きさ	幅222×高さ125×奥行56mm
重さ	1.1kg (電池を含む)
電源	DC 4.5V (UM-2×3) AC 100V (内蔵)
スピーカ	9.2cm, 8隻
ジャック	REC OUT, AUX IN, MPX OUT, DC OUT イヤホン, ACコネクタ

電気的特性

AM部	
受信周波数	530 - 1,605kHz
中間周波数	455kHz
最大感度 (出力50mW時)	27dB/m (22.4μV/m)
SN比	37dB (入力60dB, 1,000kHzにて)
選択度	37dB (1,400kHzにて)
FM部	
受信周波数	76 - 90MHz
中間周波数	19.7MHz
最大感度 (出力50mW時)	-1dB (0.63μV _{rms} ……5/25.6dB)
実用感度 (出力50mW時)	5dB (1.8μV _{rms} ……5/11.39dB)
SN比	65dB (2.5μV, 20MHzにて)

AM・FM共通部

消費電流	無信号時: A M22mA F M29mA
出力	無信号最大出力時: 470mA 無信号最大: 800mW 最大: 1.3W

付属品

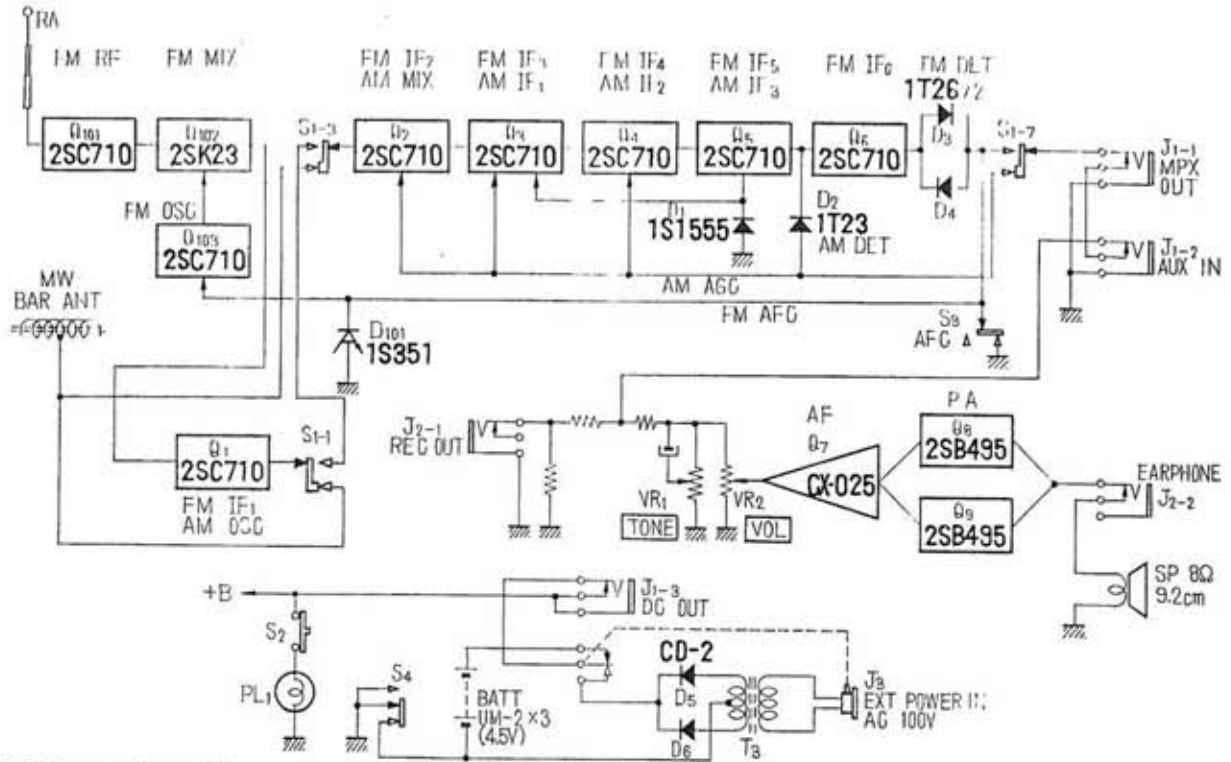
現用電池	HM-1 (スーパー)	3
イヤホン	ME-20	1
ACコード		1
キャリングケース		1
イヤホンケース		1
肩掛けベルト		1
その他	印刷物	1式

ソリッドステートIC **11-R**

¥ 12,500

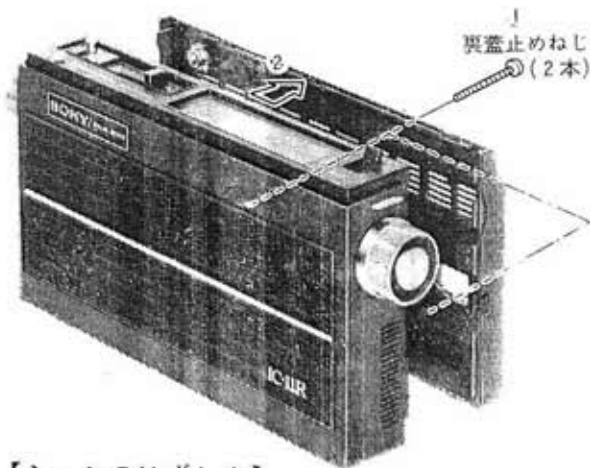
SONY®

【ブロックダイアグラム】



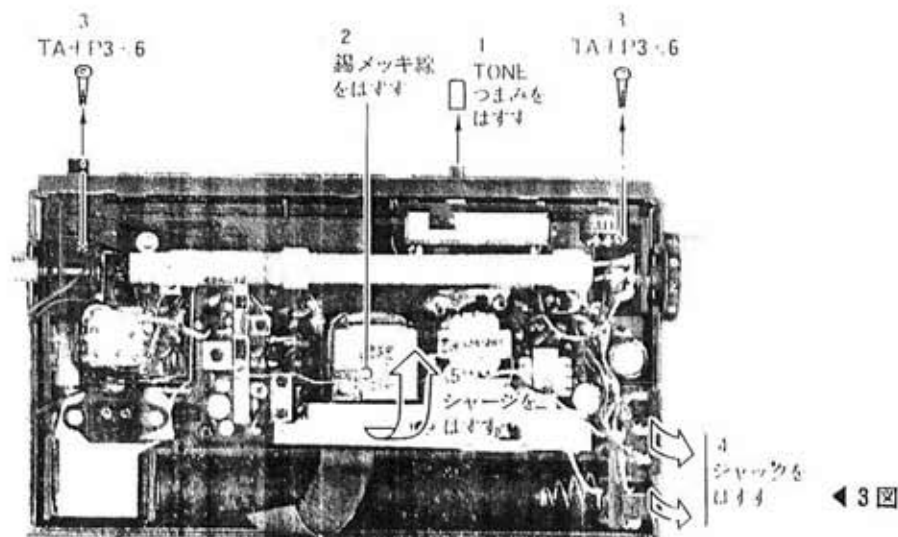
【裏蓋のはずし方】

1 図▲



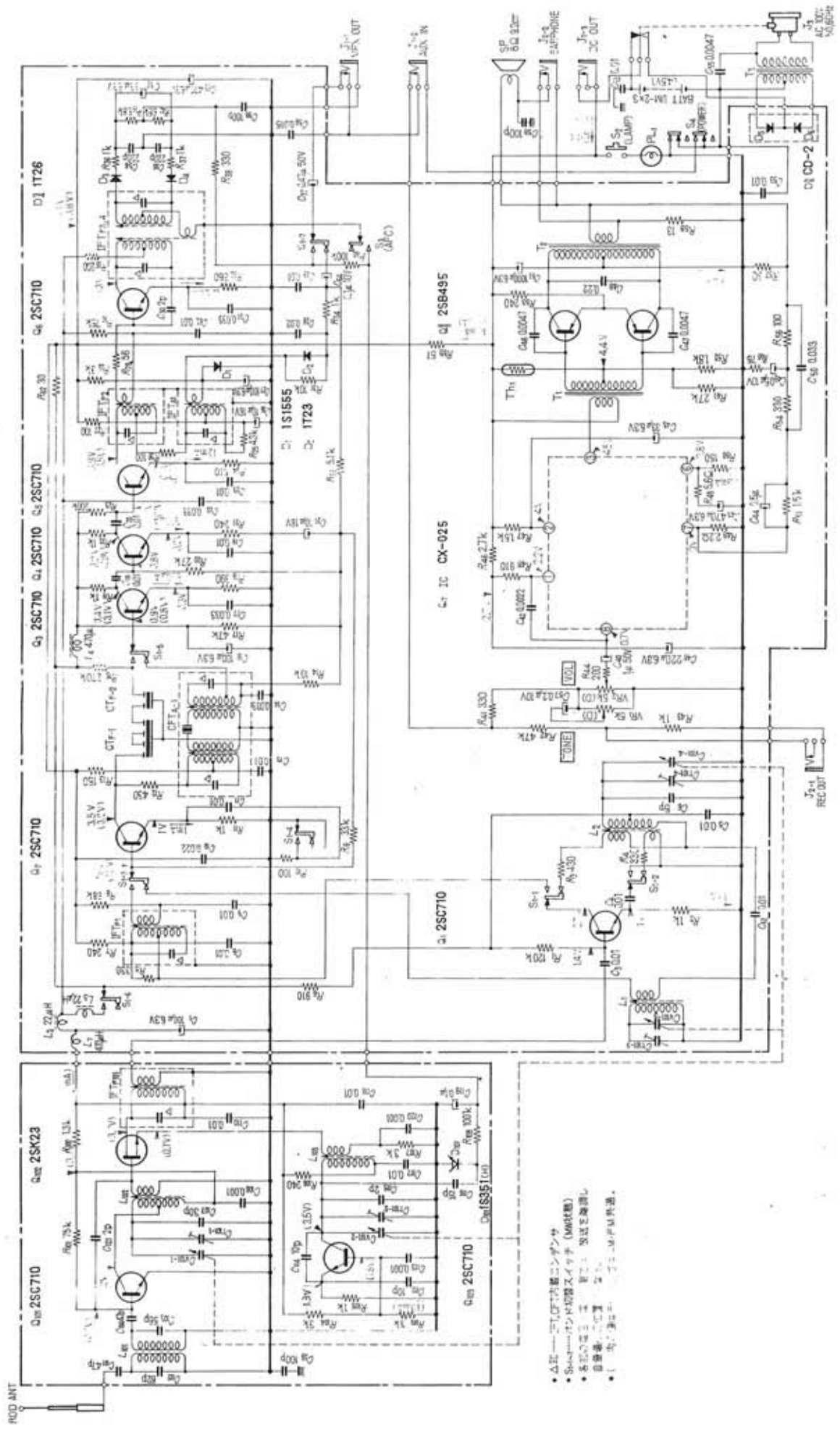
◀ 2 図

【シャシのはずし方】



◀ 3 図

【回路図・電圧電流分布図】

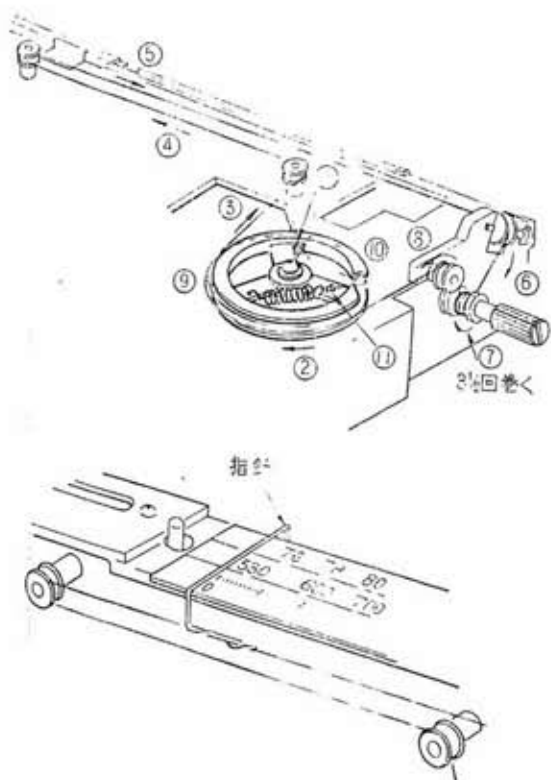


- ΔE...ICの各部コンデンサ
- S...ICの各部コンデンサ (MMF仕様)
- 本記の記号...ICの各部コンデンサ
- 1...ICの各部コンデンサ

【ダイヤル糸掛け】

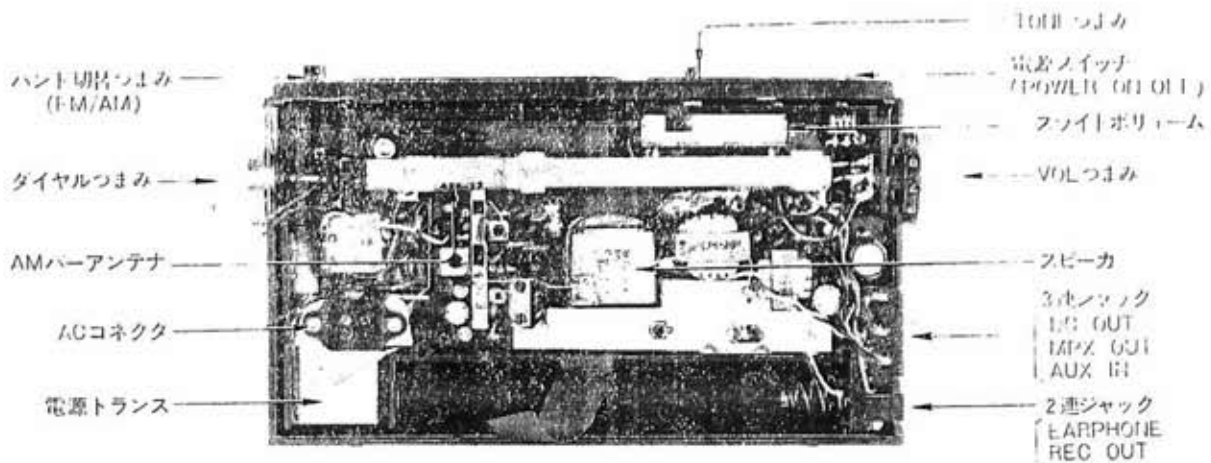
5図を参照し、次のように行ってください。

- 1) まず、85cm位のグイヤル糸(0.25φ)を用意する。
- 2) グイヤルドラムを時計方向一杯(Cmin)
- 3) 糸をグイヤルドラムのリブの穴に結ぶ。(①)
- 4) もう一つの穴にスプリングを掛けておく。
- 5) ②~⑩の順に糸を掛ける。
- 6) スプリングに糸を通し、はとめて固定する。(⑩)
- 7) グイヤルシャフトを反時計方向一杯(Cmax, fmin)に回し、指針が目盛板の“0”目盛の上になるように取りつける。



5図▲

【各部の名称】

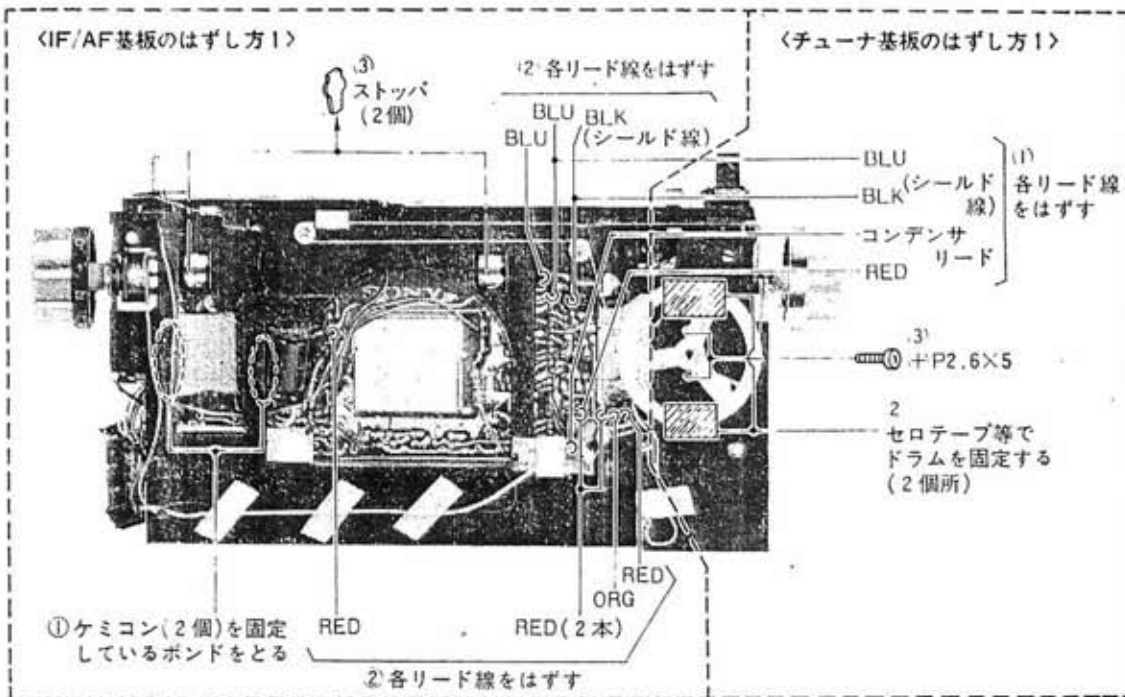


4 図 ▲

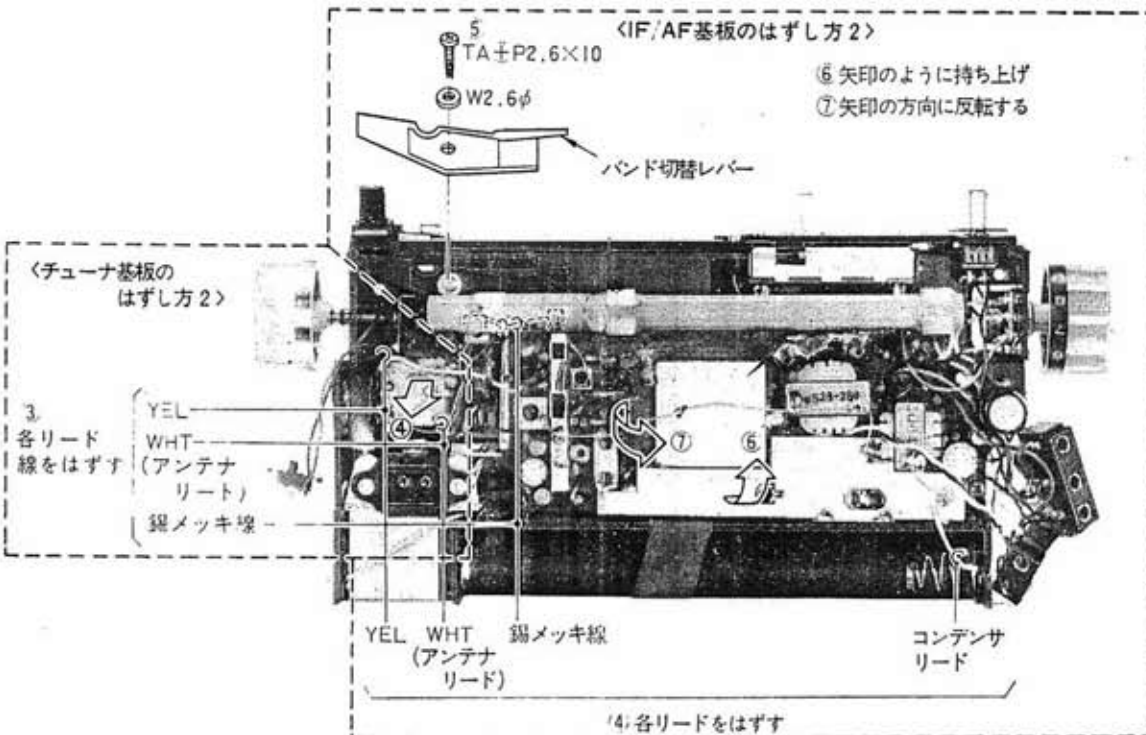
【部品表】

品名	部品コード	定価	備考
キャビ本体組立	X-38365-86-0	600	裏蓋 } 含まず 電池蓋 } 前面格子 }
裏蓋組立	" -85-0	170	電池蓋含まず
電池蓋	3-834-638-21	20	黄色
前面格子組立	X-38365-83-0	200	
ダイヤルつまみ組立	" -01-0	100	
ボリュームつまみ組立	" -02-0	80	
バンド切替つまみ組立	" -03-0	20	
トーンつまみ	3-836-526-00	10	
アンテナキャッチャ	" -529-00	10	
裏蓋止めねじ	3-830-365-00	5	
電池ばね	3-834-526-00	10	
VR 5kΩ (D)	1-222-347-00	70	VOL
スライドVR 5kΩ (D)	" -348-00	120	TONE
電源トランス	1-441-627-00	250	
ロッドアンテナ	1-501-106-00	350	
スピーカー	1-502-257-22	400	9.2cm φ
2連ジャック	1-507-174-22	60	J _{2-1, 2}
3連ジャック	" -322-00	100	J ₁₋₁₋₃
外部電源ジャック	1-509-119-00	110	J ₃
AFCスイッチ	1-513-284-00	50	S ₃
電源スイッチ	1-514-729-21	120	S ₄
パイロットランプ	1-518-051-14	35	
電源コード	1-534-559-11	200	

【プリント基板のはずし方】



6図▲

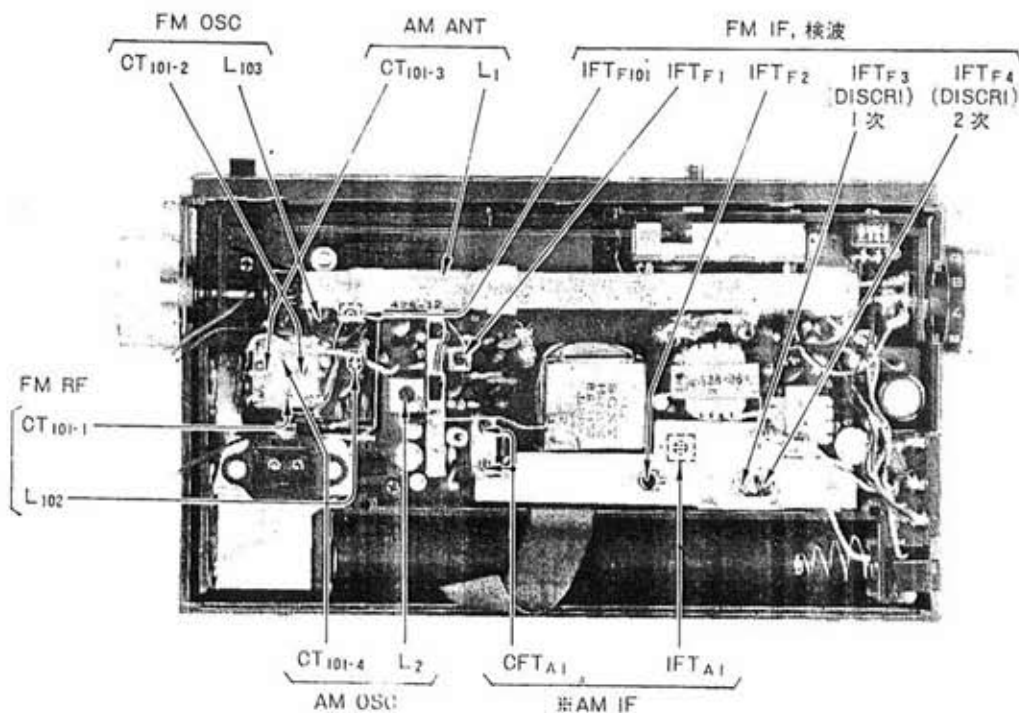


7図▲

【調整要領】

	調整回路	発振器周波数	グイナル位置	調整個所	調整方法
A M	※ 中間周波	455kHz	ビートを起さぬ位置	IFT _{A1} CFT _{A1}	出力最大となるようにコアを回す
	発振 (受信範囲)	520kHz 1,680kHz	低 端 高 端	L ₂ CT ₁₀₁₋₄	受信できるようにコアを回す # トリマを回す
	アンテナ (トラッキング)	620kHz 1,400kHz	正しく同調をとる	L ₁ CT ₁₀₁₋₃	最大出力となるようにコイルを動かす # トリマを回す
※IFT _{A1} (シールド板の下) およびCFT _{A1} は、プリセットされているので調整の必要はありません。特に調整の必要が生じた場合にのみ上記のように行ってください。					
F M	中間周波	10.7MHz	ビートを起さぬ位置	IFT _{F101} IFT _{F1-F4}	出力最大となるようにコアを回す
	検波	放送を受信し正確に同調をとる		IFT _{F4}	音質最良となるようにコアを回す
	発振 (受信範囲)	75MHz 91.5MHz	低 端 高 端	L ₁₀₃ CT ₁₀₁₋₂	受信できるようにコアを回す # トリマを回す
	高周波 (トラッキング)	75MHz 91.5MHz	低 端 高 端	L ₁₀₂ CT ₁₀₁₋₁	出力最大となるようにコアを回す # トリマを回す

【調整個所】

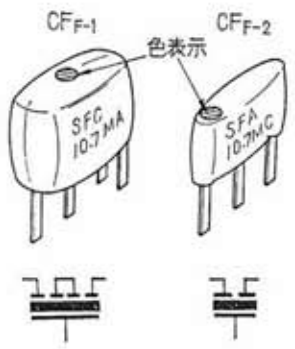


8図▲

【FMセラミックフィルタについて】

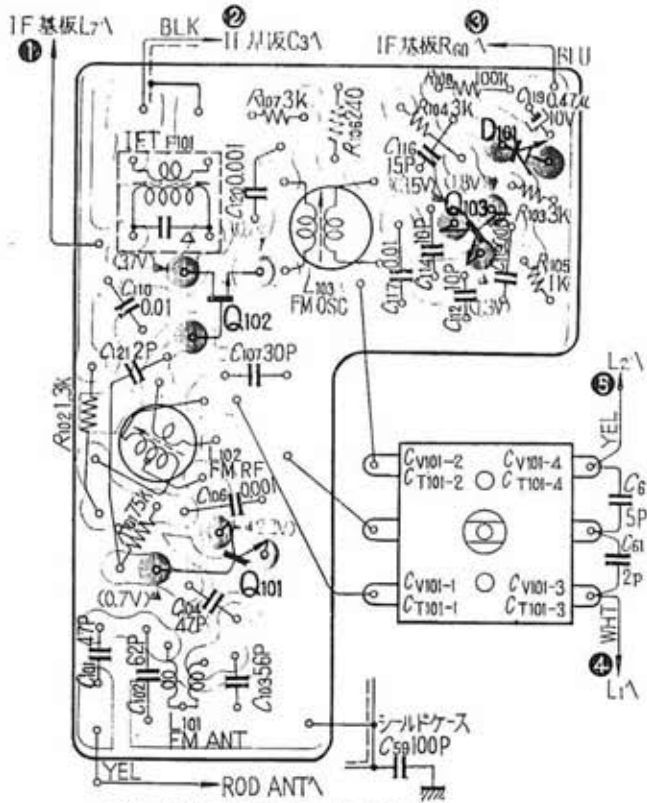
本機のFM用セラミックフィルタCF_{F-1}、CF_{F-2}は2個1組として1つの部品(1-527-502-)となっています。これは、CF_{F-1}、CF_{F-2}の特性のそろったものを使用する必要があります。従って、いずれか片方が不良になった場合でも下表の組合せ(A-D)にもとずき、それに合ったものと交換するように注意してください。

組合せ	1-527- 502-□□	色表示	
		CF _{F-1}	CF _{F-2}
A	-11	赤	赤
B	-21	青	黒
C	-31	橙	白
D	-41	緑	緑



9 図 ▲

【FMチューナ部プリント図】



- 電圧・電流の測定に放送を離調し
音量最小の位相で行なふ
- ()内はFM時の値